

共育・協働プロジェクト

江戸川区「学校応援団」

～ 地域とともに歩む学校づくり ～



江戸川区教育委員会

「学校応援団」がめざすもの

○江戸川区「学校応援団」の趣旨

学校・家庭・地域が、共育・協働で、子どもたちの豊かな「育ち」と確かな「学び」をめざすとともに、その中核となる学校の教育活動を支援する連携体制づくりを進めます。

江戸川区では、家庭・学校・地域社会緊密な連携のもとで、子どもたちの豊かな「育ち」と確かな「学び」を目指して教育活動を進めてきました。

しかしながら、社会環境の急激な変化等によって、学校教育においても様々な課題が生じています。子どもたちの学習意欲や生活リズムの問題、つまずきをかかえての進級・進学、さらには、それにともなつての不登校の問題などに直面しています。

子どもたちの心身の発達段階に応じた心と体、そして学力を育成し、一人一人の個性や能力を伸ばし、子どもたちが明るい将来を目指すことができるよう、学校・家庭及び地域における連携協力が今まで以上に必要になっています。

このことを踏まえ江戸川区では、学校経営方針に基づき、現在の組織を十分に活用・再編成をし、教育活動を支援する新たな発想による連携体制づくりとして、各学校における江戸川区「学校応援団」を推進していきます。

○江戸川区「学校応援団」の目的

学校・家庭・地域が一体となり、地域ぐるみで子どもを育てる体制を推進します。

- 1 子どもたちの成長をそれぞれの役割のもとで応援します。
- 2 家庭・地域がそれぞれの役割のもとで学校を支援します。
- 3 地域の資源・人材の活用の橋わたしの役割を果たし、学校力を高めます。

子どもたちは、いろいろな大人とのかかわりや多様な体験・経験が増えることにより、規範意識やコミュニケーション能力が向上します。多くの大人が子どもたちを見守ることで、よりきめ細やかな教育ができるとともに、地域や保護者の方々の協力を得ることで、教員が教育活動により一層力を注ぐことができます。

地域や保護者の方々にとっては、自らの経験や知識・技能を、未来を担う子どもたちの教育に生かすことができるとともに、自らの経験や知識・技能を生かす場が広がり、自己実現や生きがいづくりにもつながります。

また、地域や保護者の方々や、学校教育に関する専門的知識・経験を有する方々が教育活動にかかわることで、地域のきずなが深まり、地域の教育力が今まで以上に向上します。

○江戸川区「学校応援団」の特色

各学校の校長先生の経営方針に基づき、現在の組織を十分に活用・再編成し、教育活動を支援する連携体制づくりの再構築を行います。地域の資源や人材の活用によって、学校全体の機能を高めることを目指し、各学校の特色や創意工夫を生かしつつ、校長先生をはじめ関係の先生方が異動になっても組織的に対応できる体制づくりを行います。

江戸川区においては、すでに各学校に様々な形で、学校を応援する体制があります。

たとえば、幼稚園においては、園行事のお手伝い、小学校においては、学習の支援・教育環境整備の支援・登下校の支援等々、中学校においては、主に、土曜補習の学習支援の体制等があります。これらの応援体制には、学校を側面から応援する「おらが学校」という熱き思いがあふれています。

江戸川区「学校応援団」は、新たな組織を編成するのではなく、現在の組織を十分に活用し、教育活動を支援する連携体制の再構築をおこなうものです。



「学校応援団」をつなぐために

学校



- こんな人材が欲しい
- こんな取組みができる

コーディネータ



- こんなことができる
- こんなことがしたい

保護者・地域の方々



○江戸川区「学校応援団」のコーディネーター

コーディネーターに求められるもの

- ネットワーク力（他の団体と連携ができる）
- マッチング力（人材の確保と配置）
- コミュニケーション力（人間関係の形成）
- インフォメーション力（事業・サークル・団体の紹介）
- プロデュース力（提案と企画・運営）

江戸川区「学校応援団」を学校長の経営方針に基づき、円滑に進めていくためには学校と保護者・地域の方々の調整を行うコーディネーターの役割が重要となります。

地域に根ざした事業に展開していくためには、地域活動、教育活動に関心・理解があり信頼の厚い方をお願いするといいいでしょう。

○コーディネートのしくみ

学校教育活動のねらいと保護者・地域の方々の活動に対する思いや考えをつなぐ役割をしてくれる人を「コーディネーター」といいます。

コーディネーターは学校のニーズを把握して、学校の求めに応じた保護者・地域の方々を派遣する役割を担っています。

○コーディネーターの効果

コーディネーターのおかげで、保護者・地域の方々や先生の「とまどい」や「悩み」が解決され、ボランティア活動が円滑にできるようになります。

その結果、学校でのボランティア活動がさかんになり、活気ある教育活動が展開されるようになります。

- ・ボランティアの情報が手に入りやすくなり、効果的な教育活動を計画できるようになります。
- ・学校の経営方針やニーズを把握し、保護者・地域の方々に伝えてくれます。
- ・連絡・調整のための時間が短縮されます。
- ・学校での体験活動や学習活動が充実します。
- ・地域の思いや願いが学校に伝わりやすくなります。
- ・実際に活動している保護者・地域の方々の相談相手となります。
- ・一緒に授業や行事を創り上げることで、学校と地域がより身近になります。

○コーディネーターの役割

コーディネーターは、学校と保護者・地域の方々の間に立って両者を結びつけるだけでなく、両者の思いやねらいを受け止め、「協働」という対等な関係で一緒に活動を創り上げていくための調整をします。

1 受け止める

「ボランティア活動をしたい」という保護者・地域の方々の思いや、「ボランティ

アの応援が欲しいという学校のニーズを受けとめます。

また、活動内容の相談や活動後の感想等についても受けとめ、必要に応じて励ましたりアドバイスしたりします。

2 知らせる

学校が必要としているボランティアの情報や、実際の活動の様子を地域や学校に伝えます。

3 つなぐ

「ボランティア活動をしたい」という保護者・地域の方々と「ボランティアの応援が欲しい」という先生をつなぎ、調整します。

4 育てる

ボランティア活動がより良い活動となるよう、研修会等の学ぶ機会を提供します。

○コーディネーターの心得

1 ボランティアと先生、子どもたちが同じ思いを分かち合える活動となるよう、心がけましょう。

ボランティア活動は一方通行ではありません。一緒に活動することで、お互いに学ぶ双方向の活動です。思いを分かち合える活動になるように、心がけましょう。

2 ボランティアと学校の両者が対等に話し合えるように工夫しましょう。

ボランティアと学校が対等になって、はじめて「協働」が生まれます。「学校・子どもたちのために」から「学校・子どもたちとともに」となるように工夫しましょう。

3 次の活動につながるよう活動後は必ず言葉かけをしましょう。

言葉かけをすることはコーディネーターとしての大切な技術です。アドバイスとともに忘れずに励まし、勇気づけましょう。

4 活動を通じて見えてきた問題はボランティアにも学校にもきちんと伝えましょう。

コーディネーターはボランティアと学校の両者の話を聞くことで、問題点や課題に気づくことがあります。より良い活動にするために、問題点や課題はきちんと両者に伝え、一緒に解決策を考えましょう。

5 知り合いを増やしましょう。

コーディネーターに大切なのは、何を知っているかよりも、誰を知っているかです。いろいろな人と知り合いになり、よい関係をつくっていきましょう。



○江戸川区「学校応援団」取り組むための留意点（先生編）

- 保護者や地域の方々の気持ちを大切にしましょう
- 事前の打ち合わせを十分にしましょう
- 江戸川区「学校応援団」サポート員を全教職員で気持ちよく迎えましょう
- 子どもたちに事前に説明をしておきましょう
- 江戸川区「学校応援団」コーディネーターやサポート員の居場所を用意しましょう
- 次の活動につなげられる工夫をしましょう

○保護者や地域の方々の気持ちを大切にしましょう

江戸川区「学校応援団」コーディネーターやサポート員の気持ちや考えを尊重し、「思い」や「やる気」を十分に引き出しましょう。

○事前の打ち合わせを十分にしましょう

初めて学校に来て活動をする保護者や地域の方々は不安でいっぱいです。あらかじめ、準備するものや当日の役割分担などを十分に打ち合わせておきましょう。

○江戸川区「学校応援団」サポート員を全教職員で気持ちよく迎えましょう

気軽にあいさつを交わしたり声をかけたりするところから全教職員と江戸川区「学校応援団」の信頼関係が始まります。全教職員で気持ちよく対応しましょう。そのためにも、朝の打ち合わせでサポート員の来校を伝えるなど、教職員間の共通理解を図ることが大切です。

○子どもたちに事前に説明をしておきましょう

サポート員の方々が何のために教室に入って一緒に活動をするのか、事前に説明をしておきましょう。学校生活が地域の方々に支えられていることを理解できるような事前指導を心がけましょう。

○江戸川区「学校応援団」の居場所を用意しましょう

余裕教室などを活用し、活動の準備や着替えのできる江戸川区「学校応援団」ルームのような場所を設けましょう。PTA会議室などの兼用も考えることもできます。

○次の活動につなげられる工夫をしましょう

次の活動につなげられるように、活動内容の成果や課題、改善点などについて話しあうことも大切です。



○江戸川区「学校応援団」に参画するための留意点（保護者・地域の方々編）

- 事前の打ち合わせを十分にしましょう
- 実際の活動で気をつける点を十分に理解して参画しましょう
- 仲間の輪を広げていきましょう

○事前の打ち合わせを十分にしましょう

江戸川区「学校応援団」のサポート員として参画することが決まったら、江戸川区「学校応援団」コーディネーターや先生と十分な打ち合わせをしましょう。

- ・当日、学校に着いてからの動きや、活動場所などを確認しましょう。
- ・学校のねらいや子どもたちの様子、活動内容などについて、十分に理解しましょう。

○実際の活動で気をつける点を十分に理解して参画しましょう

- ・活動では、遠慮せずに、子どもたちにかかわりましょう。
- ・子どもが意欲的に取り組めるよう、良いところを見つけてほめてあげましょう。
- ・活動中での知り得た子どものことについては公言してはいけません。
- ・学校のこと、先生のこと、他のサポート員の批判などは、子どもたちの前では言わないようにしましょう。
- ・子どもの様子や活動の中で気がついたことは、コーディネーターや先生に相談しましょう。
- ・子どもたちがなかなか自分の言ったことに従わない場合であっても、たいてい注意してはいけません。

○仲間の輪を広げていきましょう

- ・楽しく、継続的な活動を行うためには、仲間の輪を広げ、交流することが大切です。仲間の輪を広げることによって、活動の悩み事を、仲間に相談したり、お互いの資質を高めたりすることができます。



江戸川区「学校応援団」の活動

○江戸川区「学校応援団」の内容及び活動

主な内容及び活動には主に次のような活動があります。

○子どもたちへの支援

- ・学習活動の支援
- ・教育環境の支援
- ・危機管理・健全育成の支援

○学校経営への支援

江戸川区「学校応援団」の活動については、大きくわけて、「子どもたちへの支援」と「学校経営への支援」と2つあります。

「子どもたちへの支援」については、主に、学習活動の支援、教育環境の支援、危機管理の支援があります。

○学習活動への支援・・・学校や先生の希望に応じて支援します。

学習活動のゲストティーチャー（GT）

子どもたちの学習の理解を深めるために、直接、学習指導を行います。

＜活動例＞地域の歴史学習、短歌や俳句、戦争体験などの話、英語活動、
伝統芸能、パソコン、部活動 等々

学習活動のアシスタント（GA）

子どもたちの学習活動を効率よく進めるために教師の指導を手助けします。

＜活動例＞ドリル学習の補助、家庭科・理科・図画工作の補助、授業中の補助、読み聞かせ 学校行事等の補助 等々

○教育環境の支援

安全で快適な学習環境を整備します。

＜活動例＞図書館整備、花壇の整備、教材・教具の整理、校舎内外の整備 等々

○危機管理・健全育成の支援

子どもたちが、安心・安全で学校生活を送れるよう支援します。また、子どもたちの規範意識や社会性を育成するための支援もします。

＜活動例＞子どもたちの登下校の見守り、校外学習の引率の補助、公開授業での校舎内外の見守り、朝の挨拶運動 等々

「学校経営への支援」については、各学校の校長先生の経営上の悩みや困ったことを解決できるようお手伝いをします。

学校評議委員会、学校保健委員会、地域推進協議会、学校評価委員会 等々

平成26年度 学校応援団活動内容

《小学校》 73校

安心・安全	登下校の見守り	60校
	校外学習の引率	42校
	安全教室	34校
	旗振り	45校
	行事見守り	63校
	安心・安全パトロール	32校
	安全マップ作り	9校
	防災訓練	7校
読書活動	読み聞かせ	73校
	図書室整備	69校
	本の選定	5校
学習活動	学習補助	52校
	地域との交流学習	55校
	昔遊び講師	30校
	ゲストティーチャー	17校

《中学校》 33校

安心・安全	行事見守り	21校
	安心・安全パトロール	18校
	登下校指導	11校
読書活動	図書室整備	15校
学習活動	地域との交流学習	28校
	学習補助・部活動支援	30校
	進路指導(面接等)	10校
	ゲストティーチャー	6校

国の動向と「学校応援団」の歩み

○教育基本法（平成18年12月22日）

学校、家庭及び地域住民等の相互の連携協力

第13条 学校、家庭及び地域住民その他の関係者は、教育におけるそれぞれの役割と責任を自覚するとともに、相互の連携及び協力を努めるものとする。

○平成20年度 「学校支援地域本部事業」を開始 《文部科学省》

学校・家庭・地域が一体となって地域ぐるみで子どもを育てる体制を整えることを目的とする。

それぞれの学校の状況に応じて地域ぐるみで学校の教育活動の支援が行われることで期待される効果

- (1) 教員や地域の大人が子どもと向き合う時間が増える
- (2) 地域住民が自らの学習成果を生かす場が広がる
- (3) 地域の教育力が向上する

○平成23年度 「学校・家庭・地域の連携協力推進事業」の1メニュー

「学校支援地域本部事業」の委託事業は平成22年度で終了。

平成23年度からは、「学校・家庭・地域の連携協力推進事業」の中の1メニューである「学校・家庭・地域の連携による教育支援活動促進事業」として引き続き「学校支援地域本部」の取組を支援。

学校・家庭・地域の連携協力推進事業

- 学校・家庭・地域の連携による教育支援活動促進事業
- スクールカウンセラー等活用事業
- スクールソーシャルワーカー等活用事業
- 帰国・外国人児童生徒受入促進事業
- 豊かな体験活動推進事業
- 専門的な職業系人材の育成推進事業

○江戸川区「学校応援団」事業として実施

- ・平成20年度 モデル校 1校（二之江第二小学校）
- ・平成21年度 モデル校 13校（小9校・中4校）
- ・平成22年度 第一次実施校 60校（小48校・中12校）
- ・平成23年度 全校実施 106校（小73校・中33校）